

円借款案件【事後モニタリング】 結果表

国名	ヨルダン
案件名	観光セクター開発事業

I. 案件概要

(1) L/A 承諾額	71.99 億円
(2) L/A 調印日	1999 年 12 月 2 日
(3) 実施機関	観光遺跡省
(4) 事業概要	<p>ヨルダンの外貨獲得に必要な観光基盤整備（7つのサブプロジェクト（※））を支援する。</p> <p>※アンマン市内の観光ゾーンの整備、ラガダン・バスターミナル建設、アンマンにおける国立博物館の建設、死海展望台の建設、死海周遊道路の建設、カラク市の観光開発、サルト市の観光開発。</p>

II. レビュー/モニタリング結果

(1) 事後評価における課題・指摘の概要
<p>2013 年度の事後評価では以下の課題が確認された。</p> <p>① ラガダン・バスターミナル：施設は完成しているものの、利用頻度が低い。</p> <p>② 国立博物館：オープンし一般市民や観光客も内覧ができる状況にあるが、一部展示コーナー（2 階部分の一部）が調整中である。</p>
(2) 対応結果/今後の対処方針/事業目標の達成見込み
<p>①ラガダン・バスターミナル：</p> <p>施設の更なる活用に向け、2013 年に交通専門家を現地に派遣。ヨルダン政府との間で施設利用活性化案について合意し、2014 年 10 月半ばにオープニング式典を実施。2015 年 6 月に長距離バス、アンマン市内巡回バス、観光バス会社の営業運行が開始された。また、2016 年には電気自動車用のチャージング・ステーション、電気自動車を使用したタクシー会社の営業が開始された他、アンマン・デザインウィークの会場の一つとしても使用され、市民や観光客に対する周知が行われた。</p> <p>2018 年より、我が方からの提案も踏まえ、アンマン市はバスターミナル活用を含む都市計画に取り組み、店舗施設についても観光促進の一環として民芸品販売店舗を設ける企画が進行している。</p> <p>③ 国立博物館：</p> <p>2015 年から週 3 回の一部開館から週 5 回の開館となり、観光客からの料金徴収も行われるようになった。また、2 階部分は企画展示で活用されているほか、年間来館者数も 2015 年以降の 3 年間で 3 倍以上の増加（2017 年の年間来場者数は約 7 万人）となっている。</p>

(3) 教訓

本事業では、ヨルダン政府内に全サブプロジェクトの事業実施を一括して担当する臨時組織を設置したが、事業終了に伴い解散され、それまでの経緯に関する情報がヨルダン政府に十分引き継がれなかった。臨時組織を設置する場合は、組織解散後のフォロー体制の持続性を確認することが重要である。